

2022年2月24日

県教委 「技能労務職の給与制度の見直し」について 2022年4月1日実施見送り

従組独自交渉 2月21日（月）11：00～

兵庫県高等学校従業員組合は、兵庫県教育委員会と昨年11月の賃金権利確定交渉から切り離され別途協議となっていた、技能労務職給料表の適用を受ける職員の給与制度の見直しについての独自交渉を実施しました。

唐津教育次長

- ・「前回の交渉以降、他府県の給与制度などの調査・分析を改めて行うとともに、みなさんからいただいたご意見も踏まえて検討をすすめてきた」
- ・「給料表の構造の見直しは避けては通れないものと考えている。しかしながら検討を重ねていく中で、職務の級の格付けについては、各団体が公表している等級別の基準職務表や具体の役職名によると、長のみを最上位の級に位置付けている団体が4団体、長と副長を最上位の級としている団体が2団体のみという状況である」
「一方で、その他の団体の中には、長や副長以外の職員を上位の級に位置づけをしているように思われる」
- ・「他団体が、対外的に説明できるような厳格な職務の級の格付けを行っている一方で、外形的な情報だけでは必ずしも明らかとならない各団体の具体の運用について、個別により詳細に調査をしたうえでさらに時間をかけて分析する必要がある」
- ・「技能労務職員の給与制度の見直し時期については、当初提案させていただいた2022年4月1日からの実施については見送るという形にさせていただきたい」

・「今後できるだけ早期に調査・分析をすすめ、その状況やこれまでみなさんからいただいたご意見を踏まえて、関係部局との協議を含め総合的に検討を行っていきたいと考えている」「そのうえで、本県における適正な給与制度の見直しについて引き続き協議をを行っていきたいと考えている」と説明および回答がありました。

組合側から

今、日本の賃金は世界的に見て上がっていないと言われ、引き上げようという流れになっている。公務員の中でも低く抑えられている私たちの賃金を下げようとするのは弱い者いじめである。世の中の流れを汲みとって検討していただきたい。

従組福田委員長

昨年の給与制度の改悪提案以降、ほんとに毎日の様に『この先どうなっていくのだろうか？』という事が頭から離れず不安で仕方ない』という声から職員から絶えることなく上がってきている。私たちが今まで県教委との信頼関係で築いてきた給料表と、これからの兵庫の教育を守っていくうえで双方の信頼を確認し強めていくのが、この交渉だと思っている。我々を本当に学校に必要なとする県教委の期待と、我々の今までの実績を認めていただけるような結果を求めて交渉していきたい。

